

特別記事

# サウンドフェスタ2022 in グランキューブ大阪

大阪市北区中之島にあるグランキューブ大阪(大阪国際会議場)にて、2022年6月29日~30日の2日間、第26回目となる「サウンドフェスタ2022」が3年振りに開催された。

この催しは、音響・映像・照明機器のイベントで、国内外のメーカーが集って展示会・試聴会などを開催。色々な機器を「見て・聴いて・触れる」をコンセプトに、1994年から開催されている関西最大級の音響映像機器のイベントである。

当展は、グランキューブ大阪のメインホールを利用した大型スピーカー試聴会、イベントホール、ホワイエを利用したの機器展示会を行うといった立体的な構成方法により、来場者の動線を上手く活用して開催された催しだと言える。

主催：サウンドフェスタ運営事務局（㈱ワタナベ楽器店）

協賛：大阪オーディオフェア実行委員会／(公社)日本舞台音響家協会

## □展示会への出展社

(株)アートウイズ、I. S. D. Japan (株)、イースペック(株)、裏方屋ドットコム、(株)ATL-KYOEI、(株)エーディーテクノ、(株)オーディオテクニカ、(株)オーディオブレインズ、Audinate Pty Ltd、オタリテック(株)、音響特機(株)、(株)カエルワークス、カナレ電気(株)、完美電気(株)、銀一(株)、コーンズテクノロジー(株)、(株)コスミックエンジニアリング、コモドマッティナー(株)、(株)コルグ、(株)シネマ工房、ジャトー(株)、(株)スタジオイクイメント、ゼンハイザージャパン(株)、ソニックエージェンシー(株)、ソリッドステートロジックジャパン(株)、タックシステム(株)、ディーアンドビーオーディ

オテクニックジャパン(株)、(有)デジコム、日本エレクトロハーモニクス(株)、ノイトリック(株)、パナソニックコネク(株)現場ソリューションカンパニー、(有)パルス、ビーテック(株)、ビデオトロン(株)、ヒビノ(株)、ベストックオーディオ(株)、ボーズ(同)、ボッシュセキュリティシステムズ(株)、(株)マーチンオーディオジャパン、マス工房、(株)メディアインテグレーション、(株)ヤマハミュージックジャパン、(有)横浜ベイサイドネット、(株)リトラスタジオ、リワイアー(株)、ルミネックスジャパン(株)、ローランド(株)、(株)ワタナベ楽器店

## □大型スピーカー試聴会への出展社（ブランド&出展企業）

ADAMSON = リワイアー(株)、d&b audiotechnik = ディーアンドビー・オーディオテクニク・ジャパン(株)、JBL PROFESSIONAL = ヒビノ(株)、L-ACOUSTICS = ベステックオーディオ(株)、MARTIN AUDIO = (株)マーチンオーディオジャパン、NEXO = (株)ヤマハミュージックジャパン、RAMSA = パナソニックコネク(株)現場ソリューションカンパニー、TW AUDiO = (株)カエルワークス

## □機材協力

デジタルミキサー：ソリッドステートロジックジャパン(株) SSL L200 Plus

ビデオプロジェクター：パナソニックコネク(株) Panasonic PT-RZ120JW+ET-DLE450

4K HDR Multi-Format Video Switcher：ローランド(株) Roland V-600UHD

ステージモニターシステム：d&b audiotechnik M4/MAX2/D20



グランキューブ大阪(大阪国際会議場)外観



会場エントランス

## オタリテック(株)

www.otaritec.co.jp



オタリテックは1980年に事業をスタートして以来、オタリ(株)の光伝送システム「Light-winder」をはじめ、世界各国から厳選したプロフェッショナル用映像、音響機器を40年以上にわたって日本の放送局、中継車、レコーディングスタジオ、ポストプロダクション、ホール設備、ライブハウス、SRへ届けてきた。

その実績を基に、スタンドアロンからトータルソリューションまで、クライアントのニーズに沿った最適な提案を行っている。

本展では、d&b audiotechnik の中規模用途向けに設計されたオグメント・アレー・ラウドスピーカーシステム「A-Series」をはじめ、新規ドライブユニットや最新鋭クラスDアンプ、DSP制御クロスオーバー、そしてPMC特許のATL™ベースローディングおよびLaminair™エアフロー技術の最新技術を搭載したPMCのモニタースピーカー「PMC6」、そのほかRIEDELのワイレスインターカムシステム「Bolero」、Roswell Pro AudioやEhrlund Microphonesのマイク、OTARIのLWB、xtaの製品などを展示した。

また、本展の大型スピーカー試聴会においては、同社取り扱いのd&b audiotechnik製ステージモニターシステム「M4/MAX2/D20」を機材協力した。

### ■d&b audiotechnik「A-Series」



d&b audiotechnikは1981年の創立以来一貫してラウドスピーカー・システムの開発・生産・販売を行い、主要なシステムの統合、構造の質とサービスの基準、技術開発の融合、設計・開発・生産とサポートに関わるすべての面を含む包括的なシステム・アプローチに取り組んでいる。

d&b audiotechnikのラウドスピーカーはPA、レンタル、設備マーケット、マルチメディア、ミュージカル、コンサート・ホール、劇場、オペラハウス、放送局、そして小型の会議室か

ら大型のスタジアムまで、世界中のあらゆる場所で使用されているオグメント・アレー・ラウドスピーカーシステム。

### ■スタジオ用モニター・スピーカー

#### PMC「PMC6」

新規ドライブユニットや最新鋭クラスDアンプ、DSP制御クロスオーバー、そしてPMC特許のATL™ベースローディングおよびLaminair™エアフロー技術の最新技術を搭載したモニタースピーカー。



### ■RIEDEL Communications

#### ワイレスインターカムシステム「Bolero」



アンテナとベルトパックだけで運用できる“Standalone”バージョンとArtistインターカムシステムと統合して使用できる“Integrated”バージョンを選択可能。ライセンスフリーの1.9GHz帯を利用する次世代DECTワイレス・インターカムであり、1台のアンテナに10台までのベルトパックを接続可能。ベルトパック50台、最大アンテナ100台までのシステムを構築可能。明瞭度が高く聞き取り易い音質。RIEDEL独自のADR技術によって困難なRF環境でも使用可能。ベルトパックの認証はタッチするだけ（NFC認証）。6ch+専用REPLYキー1chのベルトパック仕様。トランシーバー・モード用にマイクとスピーカーを内蔵。Bluetoothを介してスマートフォンとも接続可能。自然に手になじむエルゴノミクス（人間工学）に基づいたデザイン。屋外での高い視認性と強度を持つGorilla Glass™をディスプレイに採用。RIEDEL Artistインターカム・システムにシームレスに統合可能（Integrated）。アンテナまではAES67 IPネットワークで接続（Integrated）。アンテナ間最大300m（Standalone）。データ通信と電源の2重化



（Standalone）。ウェブGUIのみで設定変更可能（Standalone）。オプションのスローダウン・ボックス（NSA-002A）により4W接続を追加可能（Standalone）。以上の特徴を持っている。

### ■Roswell Pro Audio/Ehrlund Microphones

Roswell Pro Audioは北カリフォルニアに拠点を置くプティック・マイクロフォン・カンパニー。創業者のマット・マクグリン氏はDIYマイクロフォン・キット・パーツの製造会社“micparts”の運営など、長年スタジオ・マイクロフォンの世界に関わってきた人物で、彼の主催するウェブサイト“Recording Hacks.com”は「マイク界のウィキペディア」との異名を持つ世界有数のマイクロフォン・データベースとして有名である。

スタジオ・マイクロフォンの豊富な知識と長年培ってきたネットワークを駆使し、貴重なパーツを世界中から集め、マット氏自身が最適な設計を施し、「現代のワークフローに適したヴィンテージ・トーン」をコンセプトに、彼の理想のマイクロフォンを形にした製品がRoswell Pro Audioのマイクロフォンである。



左から、Roswell mini K47, Delphos II, mini K87  
中央より Ehrlund EHR-D, EHR-E, EHR-H

### ■その他（参照WEBサイト）

ライブサウンドプロセッサ&マネージメントシステム XTA Electronics 製品 ▶ 

<https://otaritec.co.jp/products/xtaelectronics/>

光伝送システム オタリ「Light-winder」LWB-24/LWB-72 ▶ 

<https://otaritec.co.jp/products/>

## ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン(株)

www.solid-state-logic.co.jp



英国Solid State Logic 社製コンソール及び同社製の各種オーディオ関連製品の輸入代理店の同社では、展示会場の他に大型スピーカー試聴会を行ったホールにて、Live シリーズコンソール “L200 Plus” の機材協力をを行った。

また、展示ブースにおいては “L550” をメインとして、2ch アナログ・バスコンプレッサー [THE BUS+]、アナログアウトボード [FUSION]、アナログミキサー [BiG SiX] などの展示紹介を行った。

### ■ SSL L200 Plus

SSL Live コンソールは世界中の多くのエンジニアに使われ、支持されてきた。そして SSL は 2017 年の ProLight+Sound において新たに L200 ライブコンソールを発表した。L200 は中規模なスケールで、素晴らしい音質とワークフローを革新する操作性、そして多彩な機能群をリーズナブルなコストで実現したコンソールである。

SSL のライブコンソールはツアーやハウス、礼拝堂や劇場など特に要求の厳しい環境においても最高のパフォーマンスを実現する熟練したエンジニアをサポートできるように設計されている。

他の SSL コンソールと同様に、L200 は最高の音質を誇ります。高性能のハードウェアとシグナルパス、スタジオグレードのマイクプリ、高音質な変換処理と 96kHz オペレーション、膨大な数のサミング能力が L200 を比類なきものとしている。そして L200 の解像度と再現性が高く繊細な音質は、言葉で説明

するのは難しいものの、聞けばすぐに SSL のサウンドだと分かっていただけのものである。さらに、おそらくもっと重要なこととして、オペレーターが最高のパフォーマンスを実現できる操作性の高さがあげられる。簡単で人間工学的な操作環境は、マルチタッチスクリーンとアサインナブルなハードウェアコントロール群、色分け、そしてエンジニアがレイアウトやシグナルプロセッシングを自在に構築できるオープンアーキテクチャ、豊富で使えるプロセッシングオプション群、正確で詳細なプロセッシングツール群など枚挙にいとまがない。

それらは全て、オペレーターが聞きたい音を素早く確実に生み出し聞くことができるようにするために設計され、統合されている。多くの偉大で創造的なオーディオテクノロジーと同様に、SSL ライブコンソールはエンジニアのための楽器だという思想から生まれている。

### ■ SSL L200 Local I/O



L200 は FOH としても モニター卓としても十分に対応できる入出力をコンソール背面に実装している。コントロールサーフェスの近くで使用する機器をステージボックスを使用することなく簡単に接続でき、FOH で求められるセットアップをシンプルに実現できる。また、SSL Live コンソールは自動認識機能を持っており、接続された I/O ユニットはすぐ

に認識され、ルーティングメニューに現れる。

L200 のローカルアナログ I/O は、12 系統の Mic/Line 入力 (そのうち2つの入力はフロントパネルに実装されているトークバック入力と共用)、12 系統12 のライン出力と4 系統のヘッドフォン・モニター出力が装備され、AES デジタル I/O は入出力ともに SRC を搭載した4ペアの入力と4ペアの出力が装備されている。

さらに MADI は8ポート (同軸6ポート、光2ポート) 装備されていて、1ポートずつ個別に、あるいは2ポートずつリダundantとして設定が可能。また FX ループとして別に光 MADI が In と Out 1ポート用意され、Waves マルチトラックや VST エフェクターなどの外部の FX デバイスに専用の入出力として使用できる。リダundant 1ペア用意されている SSL の Blacklight II 光コネクタは、コンソールとステージとの間で 96kHz のサンプリングレートで 256 チャンネルの双方向通信を可能にする。

さらに Dante インターフェイスも搭載しており、96kHz のサンプリングレートで 32 × 32 の入出力をリダundantコネクションとともに使用できる。Dante インターフェイスは SRC を装備しており、全ての Dante ネットワークで使用されているサンプリングレートに対応。背面には他に MIDI、LTC、Wordclock、GPIO の各コネクタが実装されている。また、電源は標準で二重化されている。



大型スピーカー試聴会を行ったホールにて機材協力をを行ったLiveシリーズコンソール“L200 Plus”。



出展ブースでは、Liveシリーズコンソール“L550 Plus”をメインに展示紹介。

■ SSL LIVE L550 Plus

～Live Sound Production Powerhouse～  
他のSSL コンソールと同様に、SSL Live コンソールの成功の秘密はその最高の音質にある。

また他に、高性能のハードウェアとシグナルパス、スタジオグレードのマイクプリ、高音質な変換処理と96kHz オペレーション、そして膨大な数のサミング能力も成功の要因と言える。

解像度と再現性が高く透明で繊細なSSL Live コンソールの音質は、言葉で説明するのは難しいもののサウンドを聞けばすぐにSSLのサウンドだと理解できる。

そして重要な成功のカギとなっているのは、オペレーターが最高のパフォーマンスを実現できるSSL Live コンソールの操作性の高さにある。

マルチタッチスクリーンとアサインブルなハードウェアコントロールのコンビネーションという一見シンプルで人間工学的な操作環境でありながら、多様なカラーコーディング、エンジニアがレイアウトやシグナルプロセッシングを自在に構築できるオープンアーキテクチャ、豊富で多彩なプロセッシングオプション、正確で詳細なプロセッシングツールなど列挙しきれないほどたくさんの機能がある。

それらの機能は全て「オペレーターが聞きたい音」を素早く確実に聞くことができるようにするために設計され、統合されている。多くの偉大で創造的なオーディオテクノロジーと同様に、SSL Live コンソールはエンジニアのための楽器であると言える。

L550 Plus のプロセッシングパワーの割り振りとI/O コンフィギュレーションは、とてもフレキシブルにセットアップが可能な設計であり、1136chのインプットと1136chのアウトプットが接続可能であり、96kHzで288のシグナルパスが用意されている。

288のシグナルパスはチャンネル、Stem Group、Aux、マスターとして使用し、チャンネルのコンフィギュレーションはモノ、ステレオまたはLCRとしてフォーマットが可能。また240のFull プロセッシングパス、48のDry プロセッシングパスとして用意されており、目的に合わせてFull とDry のパスを構成して使用できるほか、独立した32 x 36のアウトプットマトリクスがある。

インサートエフェクト用には288のシグナ

ルパスとは別に専用のプロセッシングパワーが用意されており、同様にダイナミックに割り当てと構成を行う。

■ SSL LIVE L550 Plus I/O



L550 Plus のI/O は、FOH あるいはモニター用として使用するために必要な様々な種類のI/O 群が用意されている。

L550 Plus にはコンソールサーフェイスにマウントされているLocal I/O があり、ステージボックスなしでのオペレーションも可能。

また、Auto Sensing という機能があり、SSL Live 用ステージボックスを接続するとコンソールは自動的にステージボックスを認識し、あとはタッチパネルからルーティング操作を行う。

L550 Plus のLocal I/O は、マイク/ラインインプット32ch 入力、TB マイク/ラインインプット2ch 入力、ラインアウト32ch 出力、ヘッドフォン/モニターアウト4ch 出力がある。

デジタルI/O としては、AES 8ペアの入出力があり全システムにSRC を装備している。

MADI は同軸タイプで6つのリダンダントペア、オプティカルで2つのリダンダントペアが標準で装備され、もしリダンダント接続が必要なければ個別に使用でき、Local MADI I/O としては最大16 系統の接続が可能である。

■ 2ch アナログ・バスコンプレッサー

“THE BUS+ ”

本年発表したばかりのBus Compressor にユニークな色づけ機能と先進のツールとしての機能を盛り込んだ多目的に使用できるバス



[BiG SiX]と[THE BUS+]を接続して展示

コンプレッサー。

THE BUS+ は、SSL 伝統のバスコンプレッサーを基本に、4 つのモード、4 つのサウンドカラーを備え、さらにダイナミックEQ を搭載した多機能ステレオコンプレッサー。

デザインの根幹はオリジナルのSSL Bus Compressor 回路に忠実でありながら、これを基盤としていくつかのユニークなサウンドのカラーと高度な処理ツールを追加している。

SuperAnalogue 回路を搭載したラージコンソール9000 シリーズのようにクリーンでパンチのあるサウンドも、初期SSL コンソールの代名詞である4000E のようなアグレッシブなサウンドも実現することが可能である。

■ アナログミキサー “BiG SiX”

BiG SiX は 4 つの SuperAnalogue マイクプリ、デュアルモノスイッチを備えた4 つのステレオインプット、3 バンドの E シリーズ EQ を全てのチャンネルに装備。2 系統の独立したヘッドフォンアウトは、ソースマトリクスを搭載している。

その特徴は、以下の通り。

Mono 4ch + Stereo 4ch + Stereo EXT 2ch。SSL SuperAnalogue マイクプリを Mono 4ch に搭載。100 mm ストロークフェーダー。E シリーズをベースとした3 バンドEQ を Mono4ch/Stereo4ch に搭載。G シリーズをベースとしたステレオバスコンプレッサー。16 In/Out の24bit/96kHz USB オーディオインターフェイス搭載。メインステレオバスに加え、ステレオバスB を搭載。ステレオCUE 2 系統搭載。トークバックマイク入力搭載。ヘッドフォン出力 2 系統搭載。

■ アナログアウトボード “FUSION ”



6 つのアナログツールを搭載し、ステレオミックスバスやステムの音色への色付けや重み付け、空間の付加といった機能を、アナログ回路でしか成し得ない柔らかさと繊細さで実現するアナログアウトボード。

ソリッド・ステート・ロジック・ジャパンHP

www.solid-state-logic.co.jp

